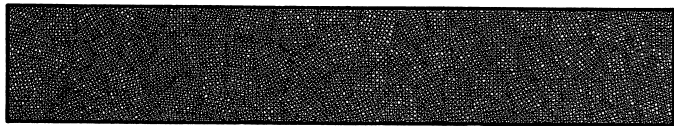


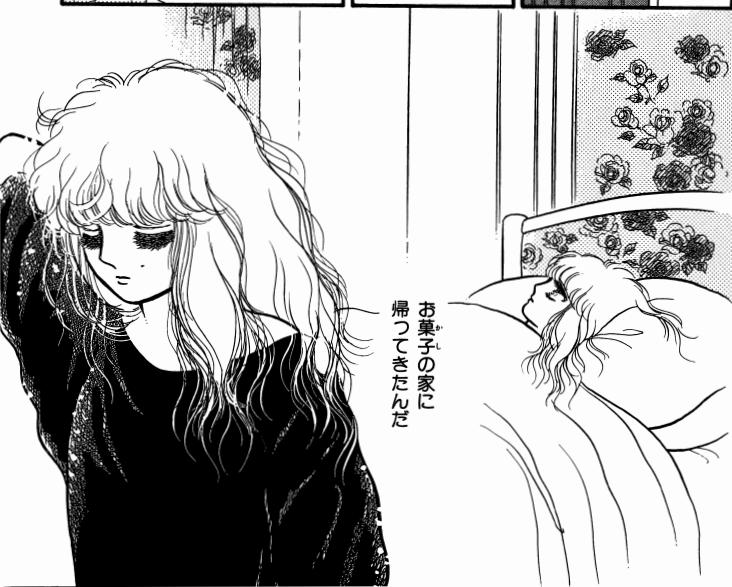
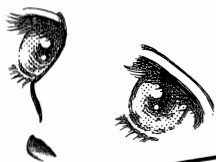
銀の鬼

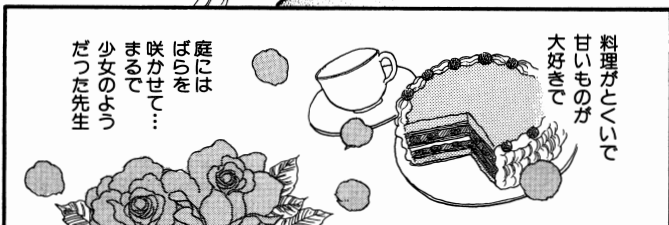
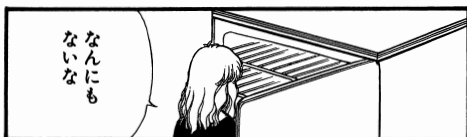
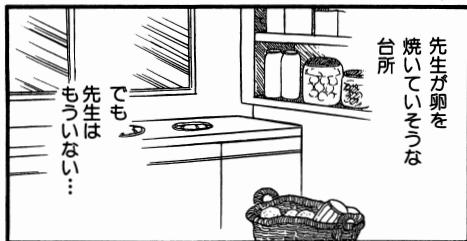
〈第三卷〉

茶木ひろみ



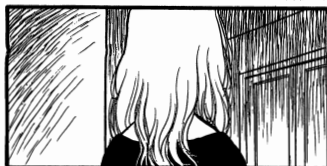
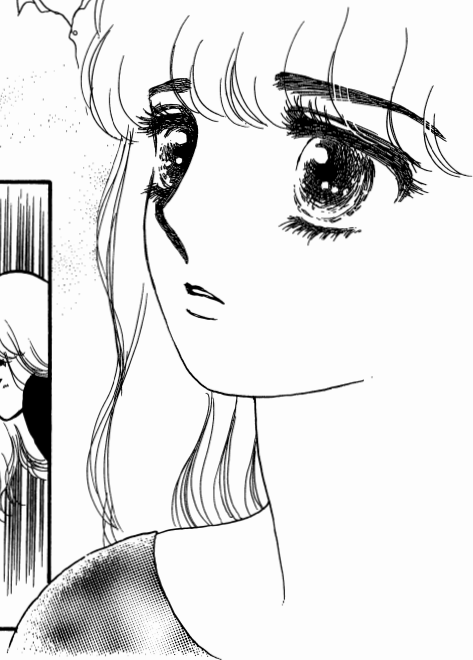






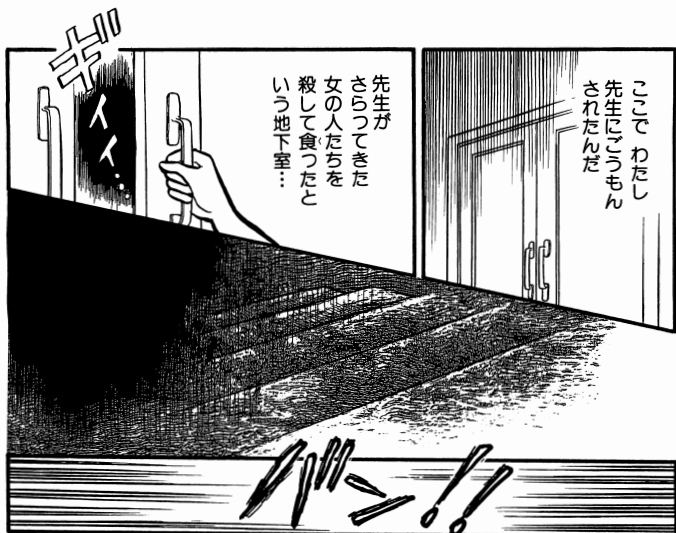
鬼^{おに}だつた
なんて
思えない

いい思い出し
かのこつて
ないの



この家で
おこつた
おそろしい
ことは
忘れかけてる

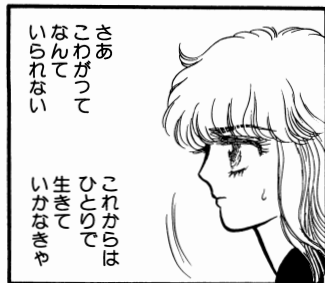
いやな
思い出は…



ここでわたし
先生にこうもん
されたんだ

先生が
さらつてきた
女の人たちを
殺して食つたと
いう地下室…

バン!!



さあ
こわがつて
なんて
いられない

これからは
ひとりで
生きて
いかなきゃ



パパとママの
残してくれた
お金があるから
しばらくは
くらしていける



まだ
ちよつとは
こわいけど

先生が死んだ
今では
ほんとにあつた
ことなのかどうか
わからなくなつたわよ



うぐん
だめだ



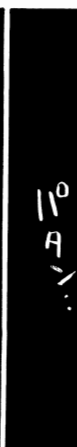
先生の机……
なにが
はいつてるの
かな
あれ
あかない



高校にも
来年からまた
通うんだ



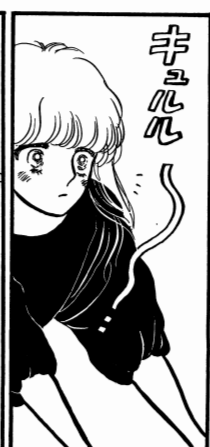
こうなると
気になるな
……



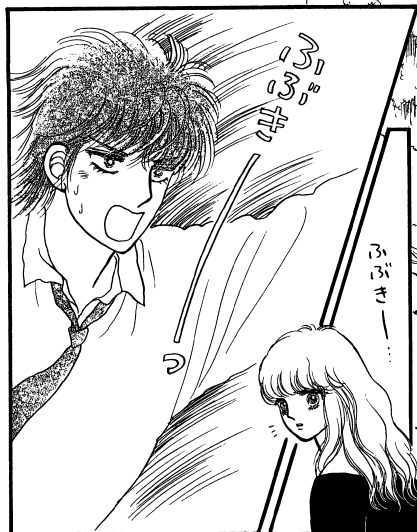
ハァン……



とにかく
買い物してきて
なんか食べて
からにしよう



キュルル



パンと
お肉と野菜
……
うん
いちおうは
買ったかな

天気悪く
なってきたな
はやく帰ろ

ふびきー

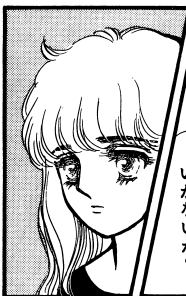


さっき
商店街で
みかけてさ

ハハハ

こっち
帰って
きてたの

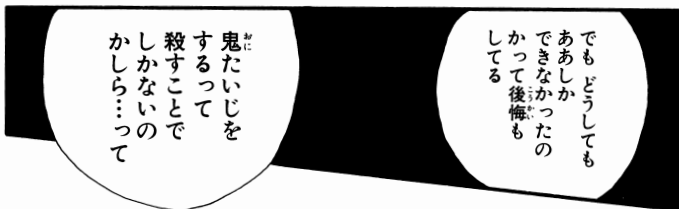
うん
きのうね
これから
連絡しよう
と思ってたのよ



会に
いかに
か?

そうか
よかったよ
ほんとに

あ そうだ
幸二さんも
こっちきてるよ
しばらく
マリードールの
経営するん
だって



そうだよ
ふぶき
元気だせよ

いつでも
おれをたよって
くれよな

おれさ
ふぶきに
愛される対象
にはなれない
けど

ふぶきを守る
ために生まれて
きたような気が
してきたんだぜ

あ…

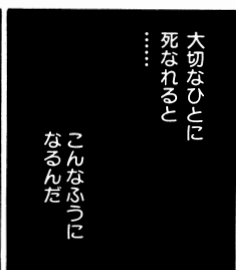
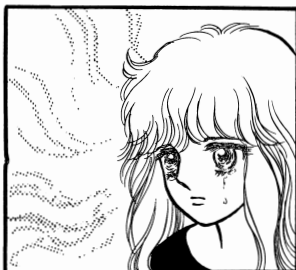
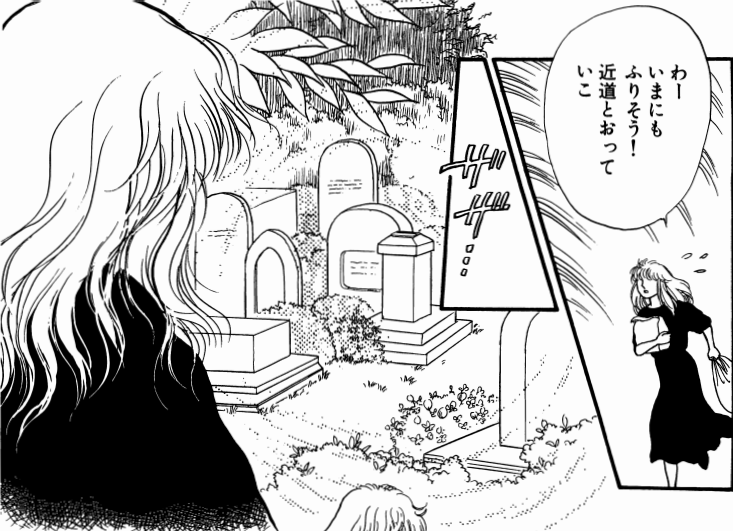
ちよつと
なんだったね
アハハ…

ありがとう

ごめんね
近松くん

あなたの
気持ちは
わかつてる
のよ……

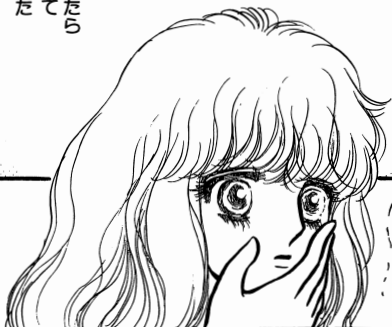
「おれさ…」





いままに
考えた？

先生が
もどつてきたら
どうするつて
考えちゃった
……



自分でも
おどろいてる
のよ

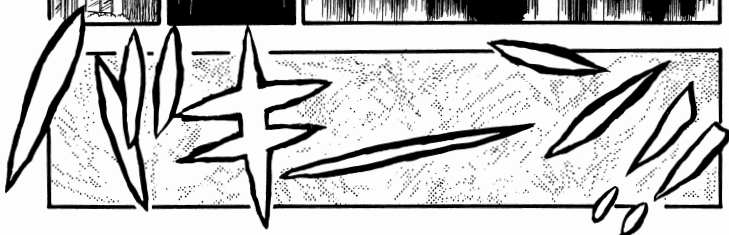
まだこんなこと
心の底で
思ってたなんて

もうすっかり
あきらめた
つもりでいたのに

わたしったら
ばかね

心の底の底では
まだ先生がどこかで
生きてるかもしれない
なんて思ってる

ばかね……

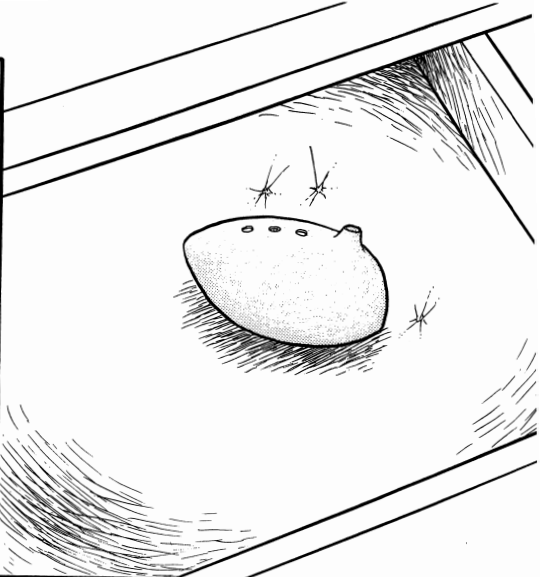


カギこわし
ちゃった



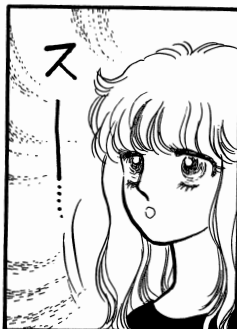


なにこれ



ただの石
じゃない
みたい
な
笛かな

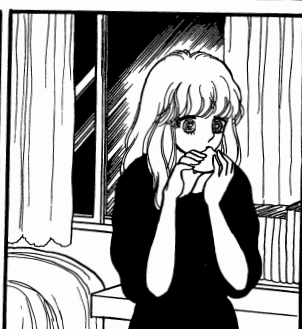
いつたい
なんで
先生は
こんなもの
しまつて…

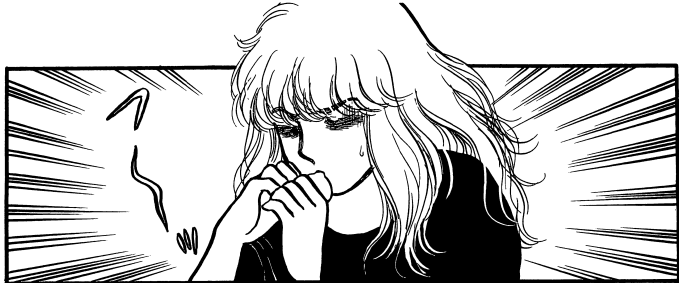


スー



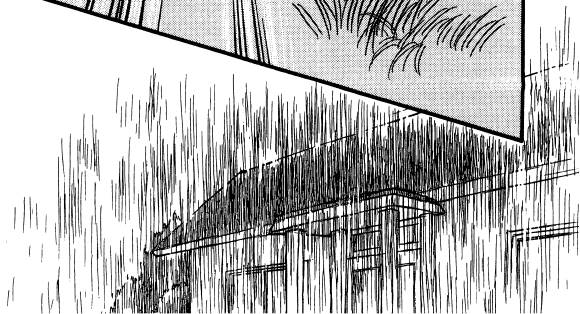
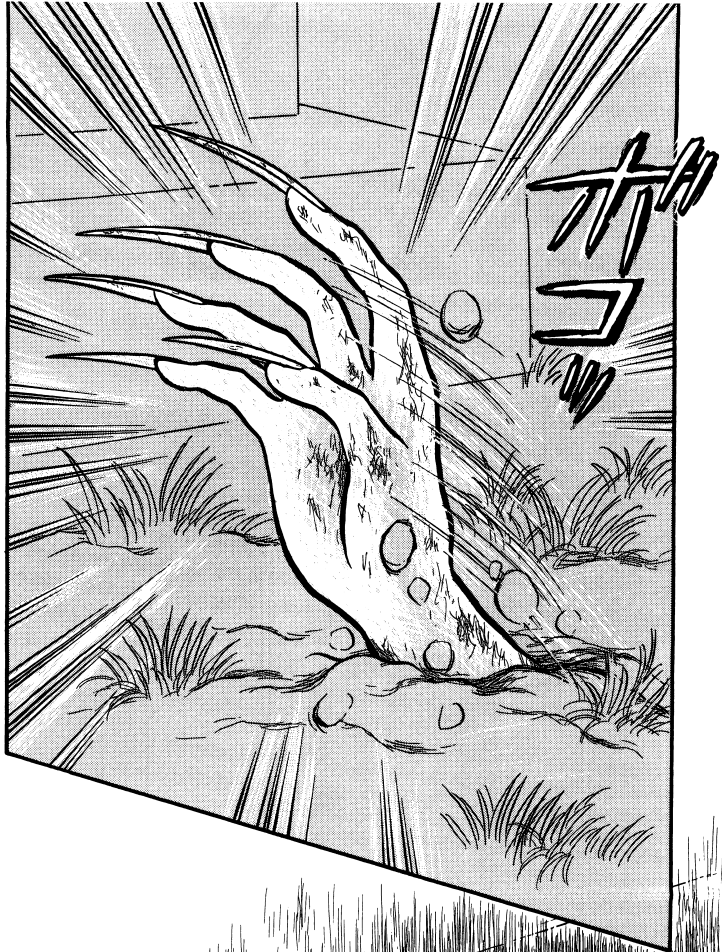
あれえ
どうやったら
なるんだらう





ならない
なあ…







ハァハァハァ……

わ…

ヒッ
ッ
ッ

